

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

アカデミックで自由闊達な校風のもと、文武両道の実践を通じて、国際社会の真のリーダーたるにふさわしい人材の育成をめざす。そのためには知・徳・体のバランス、豊かな人間性と心身のたくましさ、さらには高い志とチャレンジ精神が必要である。それらによって自らの進路を切り開き、高邁な理想で社会に貢献する生徒を育成する。具体的には以下の能力や態度をもつ生徒である。

- ・多角的な視点を持ち、ものごとを洞察する力、
- ・主体的に課題を解決しようとする態度、
- ・高度なコミュニケーション能力、
- ・自己を確立するとともに、互いの違いを認め合い尊重しようとする態度

以上の「育てたい生徒像」をベースにして、「北野生の『凄さ』が輝く学校づくり」に オール北野 で取り組む。

2 中期的目標

1 高い学力の育成

教員、生徒がともに真摯に学ぶ環境を追求し、高度な知識と教育スキルを兼ね備えた教員集団を確立する。授業を通じて生徒が学問に対する興味・関心を高め、自ら主体的に学び、さらに高度な学びに向かってチャレンジしていく意欲を高める。生徒に育成すべき資質・能力として、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を常に意識して取り組む。

(1) アカデミックな授業 ～北野生の「凄さ」が「輝く」授業づくり～

ア 授業に係る研修機会や授業相互参観等の充実を図り、教職員の授業スキルの一層の向上を図る。イ 教員の専門的知識やICT活用法を研鑽する 機会の充実を図る。

- ※ 学校教育自己診断（教職員向け）「教科指導について、教職員と日常的によく話し合っている」の肯定的評価が令和9年度実績で90%以上（R4 87.7%, R5 82.7%, R6 83.7%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が令和9年度実績で92%以上を維持（R4 95.9%, R5 94.7%, R6 89.7%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業などでコンピュータやプロジェクタ、電子黒板を活用している」の肯定的評価が令和9年度実績で95%以上を維持（R4 97.2%, R5 97.3%, R6 90.8%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業は興味深く満足できるものである」の肯定的評価が令和9年度実績で90%以上を維持（R4 94.5%, R5 94.7%, R6 88.7%）

(2) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成

ア 生徒が自学自習を進めやすくなるような方策を検討し、併せて適切なアドバイス等を行う。イ 生徒の自己実現、進路目標設定のためのキャリア教育の充実を図る。

- ※ 学習調査により把握する「平日の一日平均自主学習時間」が「2時間以上」と回答する生徒の割合を令和9年度実績で50%以上（R4 48.9%, R5 49.8%, R6 49.4%）、「3時間以上」と回答する生徒の割合を同35%以上（R4 28.4%, R5 26.2%, R6 23.7%）
- ※ ①「知的世界の冒険」、②「職業ガイダンス」、③「学部・学科ガイダンス」各々の生徒アンケートにおける肯定的評価を令和9年度実績で各々95%以上を維持する。（R4 95.6%, R5 100%, R6 96% ②R4 91.8%, R5 100%, R6 88% ③R4 98.3%, R5 98.5%, R6 99%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価を令和9年度で90%以上を維持（R4 89.4%, R5 92.1%, R6 87.7%）
- ※ 生徒進路希望現役実現率（3年第2回11月進路希望調査の第一志望校の現役合格率）が令和9年度実績で50%以上（R4 41.1%, R5 52%, R6 69%）

2 豊かな人間性と心身のたくましさの育成

本校の生徒は、将来、知・徳・体のバランスの取れたリーダーとなり、社会に貢献する使命を持つ。本校のあらゆる学習活動、学校行事、部活動やその他の課外活動等を通じて、互いの違いを認め合いつつ協力し、切磋琢磨する中で、高い志を持って何事にもチャレンジしていく心身を育成する。

(1) 学校行事・部活動・課外活動

ア 学校行事や部活動において、生徒がその力を十分に発揮できるよう組織的に支援していく。
イ 各種コンクール、コンテストや課外での行事等への積極的参加を働きかけていく。 ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「文化的行事（体育行事）に楽しく参加している」の肯定的評価の平均値が令和9年度実績で92%以上を維持（R4 92.3%, R5 94.1%, R6 88.3%）

- ※ 生活アンケート（生徒向け）における「部・同好会加入率」が令和9年度実績で92%以上を維持（R4 93.4%, R5 91.5%, R6 87.8%）
- ※ 全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数について、令和9年度に前年実績を維持（R4 61人, R5 44人, R6 40人）

(2) 人権教育・教育相談の充実

ア 「人権が尊重された教育活動」を根底にすえて、すべての教育活動において、「自分を大切にし、他者を大切にし、その中で自分も大切にされる」集団づくりを進めていく。

- イ 生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくりを一層進める。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価が令和9年度実績で85%以上を維持（R4 93.4%, R5 94.5%, R6 89.4%）
- 「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」の肯定的評価が令和9年度実績で80%以上（R4 79.3%, R5 82%, R6 81.2%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定的評価が令和9年度実績で90%以上（R4 97.4%, R5 92.3%, R6 88.1%）。
- ※ 学校教育自己診断（教職員向け）「すべての教育活動において、人権を尊重する姿勢で指導が行われている」の肯定的評価が令和9年度実績で80%以上（R4 80.7%, R5 84.6%, R6 89.8%）

3 次代のグローバル・リーダーの育成

国際的な視野を育むとともに、グローバルな社会課題を多角的に学び、積極的にその解決策を提言できる生徒を育成するため、海外や大学との連携を図る。また英語の4技能を一層バランスよく育成して、英語によるコミュニケーション能力のさらなる伸長を図る。

(1) コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成

ア 授業を中心とするさまざまな学習活動の中で、自分の考えをまとめ表現できる力、相手の主張を理解し自分の意見を交えてしっかりと議論ができる力を育成する。

- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」の肯定的評価が令和9年度実績で92%以上を維持（R4 93.1%, R5 96.9%, R6 90.4%）

(2) 海外の機関との連携、高大連携の充実

ア 高大連携を通じて、国際的な視点で大学の研究の最先端に触れ、国際的な社会課題への関心や、その課題解決に向けた意欲を高める。
イ 海外の大学や高校と連携し、アジアからの留学生との交流や留学生の支援を得る機会を充実させる中で、異なる文化や社会への理解を深め、国際的な視野を広げる。

- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある」の肯定的評価が令和9年度実績で85%以上を維持（R4 84.6%, R5 87.6%, R6 82%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある」の令和9年度実績が90%以上（R4 89.4%, R5 92.5%, R6 88.7%）
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際的な社会課題や政治の動きに関心がある」の肯定的評価が令和9年度実績で80%以上（R4 83.7%, R5 81.5%, R6 75%）

4 学習環境及び職場環境の充実

(1) 学習環境のさらなる充実

ア 生徒の主体的な実践を通して清々しく過ごせる学習環境の創出・充実に取り組む。
生徒が自らよき生活習慣、生活規範を確立し、学習・部活動、その他の活動に健康的にバランスよく取り組めるよう、機会を捉えて啓発活動を行う。また、SNS上でのいじめやトラブル未然防止のため、情報リテラシーの育成にも取り組む。また、生徒自治会・生徒保健委員会等の生徒主体の活動を尊重し、感染症防止対策など、望ましい学習環境を自らの行動によって支える意識を高める。
イ 北野生の「凄さ」が「輝く」授業・事業の継続のため、予算の効果的・効率的な執行に努める。また、老朽化してくる教材機器・設備の更新の計画的な実施を検討する。

(2) 職場環境のさらなる充実

教員が専門的知識及び教育スキルを高めるため、また生徒と向き合う時間を確保するため、業務の見直しを行い、時間外労働の縮減に取り組む。教員が自分の仕事に誇りを持ち、働きがいを感じる職場の雰囲気づくりを心がける。

以上のすべての活動を通じて、生徒の学校満足度を高める。
※ 学校教育自己診断（生徒向け）「北野高校に来てよかったと思う」の肯定的評価が令和9年度実績で92%以上（R4 91.9%, R5 94%, R6 88.7%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R 6 年度値]	自己評価
1 高い 学力 の 育 成	(1) アカデミック な授業 ～北野生の「凄さ」 が「輝く」授業づ くり～ ア 教職員の授業ス キルの向上	(1) ア ・校内での授業公開週間を実施 ・公開研究授業の実施 ・他校の初任者等教員との授業力向上 研修の実施 ・校内の教員相互の授業見学を継続。 ・I C T・オンライン学習等に係る教員 研修の開催	(1) ア、イ ・学校教育自己診断（教職員向け）（以下「教職員自 己診断」）「他の教員の授業を参観する機会がある」 80%以上 [81. 7%] ・教職員自己診断「教科指導について、教職員で日 常的によく話し合っている」の肯定的評価が 85% 以上 [83. 7%] ・学校教育自己診断（生徒向け）（以下「生徒自己診 断」）「教え方にさまざまな工夫をしている先生が 多い」の肯定的評価が 90%以上を維持 [89. 9%] ・生徒自己診断「授業などでコンピュータやプロジ ェクタ、電子黒板を活用している」の肯定的評価 90%以上を維持 [90. 8%] ・生徒自己診断「授業は興味深く満足できるもので ある。」の肯定的評価が 90%以上を維持 [88. 7%]	
	イ 研鑽機会の充実	イ ・他校や校外における授業研修等への 参加者を増やす。 ・研修等への参加者と他の教員との間 で研修内容等の共有化を図る仕組み をつくる。 ・教員の専門的知識を研鑽する機会の あり方について検討する。		
	(2) 主体的に学ぶ 意欲・態度の育 成 ア 自学自習の推進	(2) ア ・授業を通じ教科・科目の学習への興 味・関心を一層高める。 ・自学自習の推進方策についての検討 を深める。（主体的な学習習慣の定 着、学習の質量両面での充実） ・図書館の設備や資料の活用を働きか け、生徒の自主的、自発的な読書活動 や学習活動の充実を支援していく。	(2) ア ・学習調査の「平日の一日平均自主学習時間」が「2 時間以上」を 35%以上 [49. 4%] 「3 時間以上」を 35%以上 [23. 7%] ・図書館の働きかけを通して、貸出冊数の増加や学 習活動の充実を図る。[4298 冊]	
	イ キャリア教育の 充実	イ ・「知的世界の冒険」「職業ガイダンス」 「学部・学科ガイダンス」の実施 ・進路目標の早期設定に向けた取組の 充実	イ ・「知的世界の冒険」「キャリアHR」、「学部・学科 ガイダンス」各々の肯定的評価 95%以上を維持 [96%, 88%, 99%] ・生徒自己診断「学校は進路についての情報を知ら せてくれる」の肯定的評価が 90%以上を維持 [87. 7%] ・進路希望現役実現率を 50%以上[69. 3%]とする。	
2 豊 か な 人 間 性 と 心 身 の た く ま し さ の 育 成	(1) 学校行事・部 活動・課外活動 ア 学校行事や部活 動 イ 各種コンクール 等への参加	(1) ア ・学校行事が生徒にとってより魅力的 なものになるように不断の改善を図 る。 イ ・生徒が課外への活動に積極的にチャ レンジしていくよう、情報提供等を 含め、働きかけを活発にする。	(1) ア、イ ・生徒自己診断「文化的行事（体育行事）には楽し く参加している」の肯定的評価の平均値が 90%以 上を維持 [87. 8%] ・「部・同好会加入率」90%以上 [88. 3%] ・全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテス ト、競技大会等への参加者数の前年度実績維持[40 人]	
	(2) 人権教育・教 育相談の充実 ア 人権基礎教育推 進 イ 教育相談の充実	(2) ア ・本校の人権教育の体系化を図る。 ・教職員の人権意識をさらに高めるた めの研修機会等について検討する。 イ ・生徒の状況についての共有化を一層 図る。 ・S C との連携やケース会議の充実、関 係機関との連携を一層図っていく。 ・教育相談にかかる校内体制づくりを 推進する。	(2) ア、イ ・生徒自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会が ある」の肯定的評価が 90%以上維持 [88. 1%] ・教職員自己診断「日常の教育活動において、生徒 の人権を尊重する姿勢で指導を行っている」の肯 定的評価が 80%以上 [89. 8%] ・生徒自己診断「悩みや相談に親身になって応じて くれる先生が多い」の肯定的評価が 90%以上 [89. 4%]、「担任以外にも保健室や相談室等で相談 できる」の肯定的評価が 80%以上 [81. 2%]	
3 次 代 の グ ロ ー バ ル ・ リ ー	(1) コミュニケー ション力、プレ ゼンテーション 力の育成 ア 議論できる力等 の育成	(1) ア ・「課題研究」「学内留学」「国際情報」 「海外研修」等を中心に、英語を含め て、ディベート（即興型）やプレゼン テーション等の学習と実践を行う。	(1) ア ・生徒自己診断「授業で自分の考えをまとめ、発表 する機会がよくある」の肯定的評価が 92%以上 [90. 4%]	
	(2) 海外の機関や 大学との連携 ア 高大連携 イ 海外との連携	(2) ア ・国際的な社会課題への関心と課題解 決に向けた意欲を高めるため、地域 の資源を活用するとともに高大連携 をさらに進め、課題研究における生 徒支援をさらに進める。	(2) ア、イ ・教職員自己診断「本校は、外部（保護者、地域、 大学、教育産業等）との連携・協力に積極的に取 り組んでいる。」の肯定的評価が 80%以上 [79. 6%] ・生徒自己診断「国際理解や世界情勢について学ぶ 機会がある」の肯定的評価が 85%以上 [82%]	

府立北野高等学校

ダ ー の 育 成		イ ・海外の大学や高校との連携をオンラインを活用するなどしてさらに進め、また長期留学生を受け入れることで、生徒の国際経験を深めるとともに、課題について研究し、成果を発表する。	・生徒自己診断「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会がある」の肯定的評価が 90%以上 [88.7%]	
4 学 習 環 境 及 び 職 場 環 境 の 充 実	(1) 学習環境の充実 ア 学習時間の確保 イ 予算の効果的執行等 (2) 職場環境の充実	(1) ア ・平成 30 年度に策定した「北野高等学校部活動に係る活動方針」の運用について検証を続ける。 イ ・「授業第一主義」を支える予算の効果的執行 ・教材機器・各種設備の更新、トイレ等生活環境の改善に向けた中期的検討 (2) ・校内組織の見直し継続 ・会議の回数、時間の見直し継続 ・同僚性の高い職場の雰囲気づくり ・部活動指導方針遵守	(1) ア ・学習調査の「休日の一日平均自主学習時間」が「4 時間以上」を 50%以上 [49.5%]、「5 時間以上」を同 35%以上 [35.7%] イ ・学校会計事務の適正な遂行のもと、教員と事務職員がそれぞれの専門性を生かしつつ、必要な情報を収集共有し互いに知恵を寄せて、生徒のためよりよい教育活動に向けた創造的提案を行う。 ・保護者自己診断「学校の施設・設備や学習環境は満足できる」75%以上 [76.4%] (2) ・教職員の年平均在校時間を前年度より削減する。[336.8 時間]	